（財）電気通信端末機器審査協会　技術基準適合認定　A12-0361001

１１０番非常通報装置

取扱説明書

仕様・設置・点検

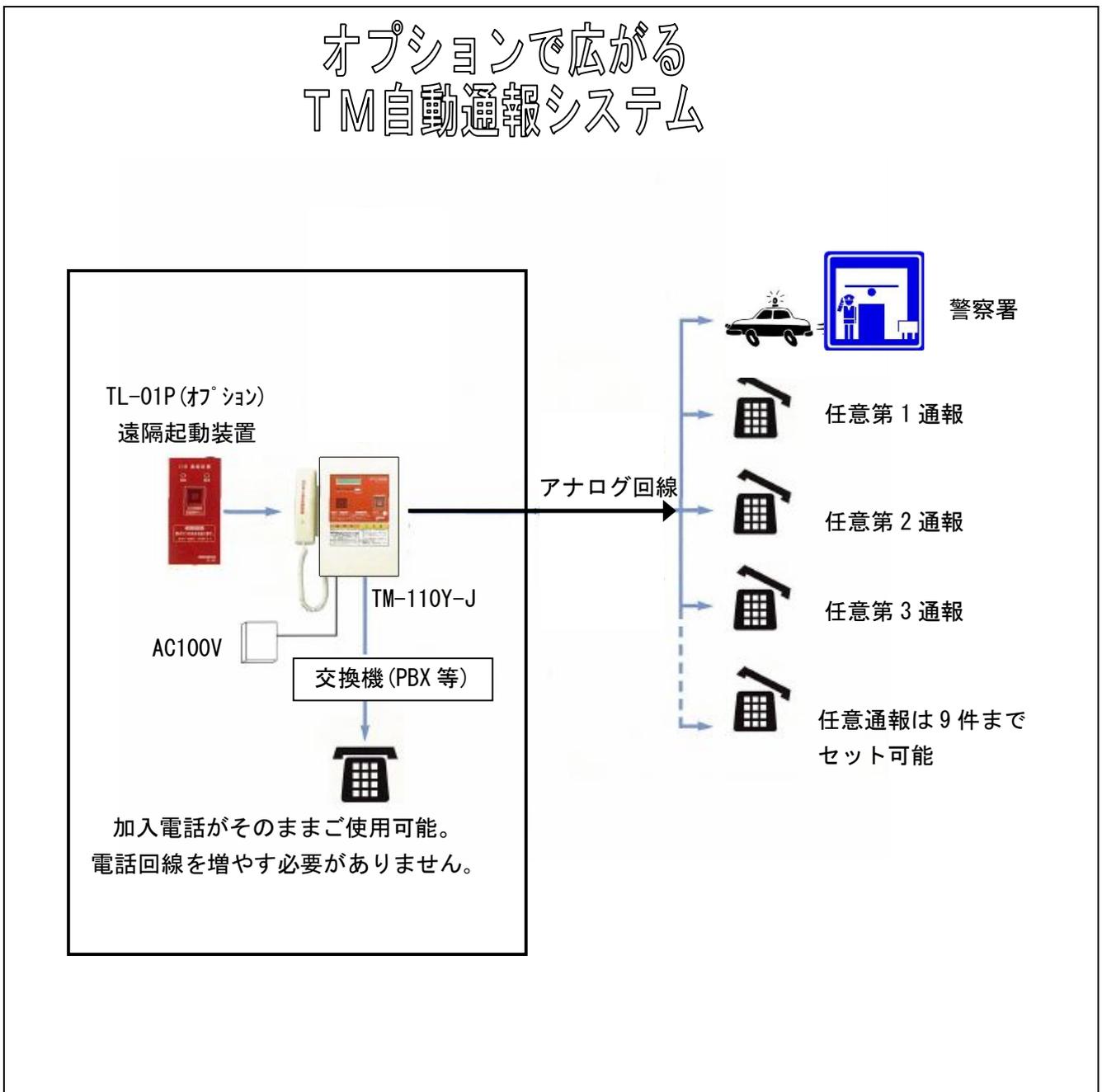
適用機種
ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ
ＴＬ－０１Ｐ
ＴＬ－１２

ヤマトプロテック株式会社

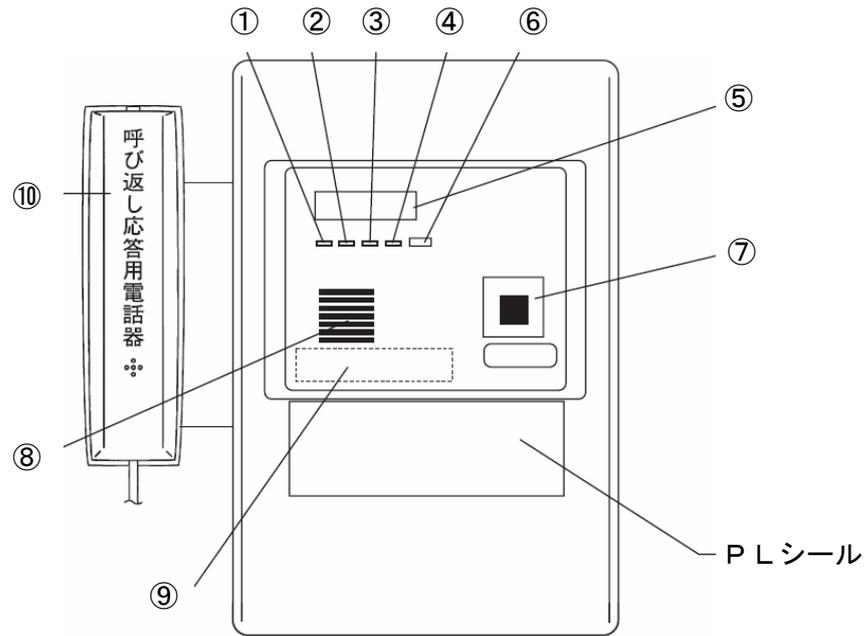
1. 概　　要

機器名：ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ

本機（ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ）は非常時、遠隔押しボタン、もしくは　手動起動装置　からの入力によりアナログ回線を通して所轄の警察署及びあらかじめ登録させた緊急通報先（任意通報先）へ自動通報を行う装置です。110 番他、任意通報先には非常事態の発生場所、物件名等予め登録した情報を音声にて伝えます。
また、任意通報時は、本体内蔵の集音マイクが作動しますので、現場状況を的確に把握する事ができます。

システム図

2. 仕　　様

項　　目	仕　　　　様
適用回線	アナログ回線(※デジタル回線は使用できません)　10 pps, 20pps , PB
通報先記録数	110番も含めて最大10箇所
通報順序	110番→任意第一→任意第二→任意第三→……任意第九
警察機関への蓄積音声情報	(ア) 手動起動装置(非常押しボタン)の操作により作動した場合。 「非常通報、非常通報。こちらは、……の……です。 逆信願います。」
ユーザー別通報メッセージ	最大20秒
通報モニター	本機内蔵のスピーカーにより通報メッセージのモニタリングが可能
外部入力	遠隔起動装置(無電圧メーク接点)
使用環境条件	温度　0～40℃ 湿度　20～90%　(結露なきこと。)
常用電源	AC100V±10V　50Hz/60Hz
予備電源	ニッケル・カドミウム蓄電池　12V　500mAh 〔監視状態で60分経過後、10分間以上の作動が可。〕
本体寸法、重量	高さ:330±4.5mm、幅:220 (300) ±4.5mm、奥行:70±3.5mm、重量:2.2Kg 括弧内は呼び返し応答電話器を取り付けた場合
定期点検条件	別紙にて点検方法を記載
情報の送出	常に冒頭から始まります。
再呼出機能	通報先の警察機関が通話中の場合は自動的に再呼び出します。
強制割込み機能	発報の際その電話回線が使用中であった場合は、強制的に発信可能の状態になります。
通報者と通話機能	一区切りの蓄積音声情報送出後、5秒間回線を開放し、110番からの呼び返しを待ちます。呼び返しがあり送受話器にて応答すれば警察機関との通話が可能となります。 蓄積音声情報送出中においても、送受話器を取り上げることにより通話が可能となります。(但し、最初の蓄積音声情報送出中は、蓄積音声情報が優先となりますので、送受話器による会話はできません。送出後は送受話器が優先となります。…送受話器の誤操作防止の為です。)

3. 各部の名称とその動作

	名　　称	起　　動　　内　　容
1	電源表示ランプ	電源投入時、待機時点灯。（予備電源使用時点滅）
2	異常表示ランプ	異常時点滅。待機時消灯。
3	起動表示ランプ	起動時点滅。全動作完了時点灯。（リセットボタンにて消灯） 待機時消灯。
4	通報表示ランプ	メッセージ送出時点滅。110番通報終了時点灯。待機時消灯。
5	液晶表示器(画面表示)	通報先・異常内容の表示・確認
6	リセットボタン	起動動作、故障動作等の解除ボタン。（動作終了後は必ずリセットボタンにて待機状態にします）
7	手動起動装置	緊急時の起動用スイッチ。（保護板を押し破ります。）
8	スピーカー	音声メッセージのモニター及び交互通話用スピーカー。
9	各注意事項の説明	簡単な操作方法と注意事項の説明。
10	呼び返し応答用 電話器	110番からの呼び返し応答用（逆信）に使用。 （財）端末機器審査協会認定品

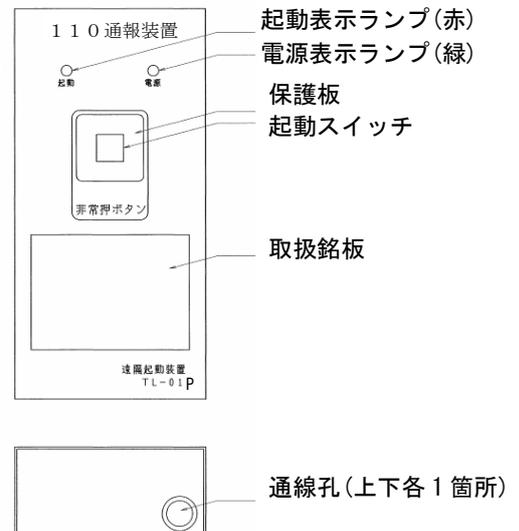
付属品一覧

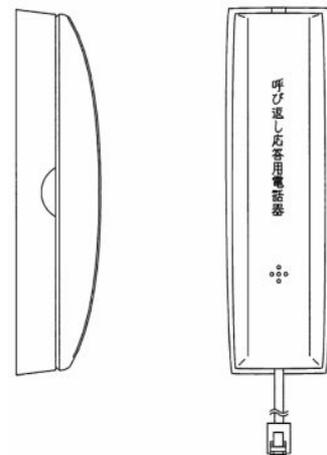
4. 本体内部の名称

１	上部通線孔	９	端子台　[FG（アース）、AC100V]
２	予備電源用コネクター	１０	端子台　[信号入力、移報出力]
３	ユーザーメッセージロムパック	１１	端子台　[増設用電話器]
４	パネル	１２	モジュラージャック
５	パネル取付ビス	１３	設定用スイッチ [メンブレンスイッチ]
６	ノイズフィルター	１４	保護板固定ネジ
７	主基板	１５	通線孔
８	予備電源　12[V]　500[mAh]	１６	電源スイッチ

5. 本体接続機器の説明　（ＴＬ－０１Ｐ　ＴＬ－１２）

ＴＬ－０１Ｐ（遠隔起動装置）

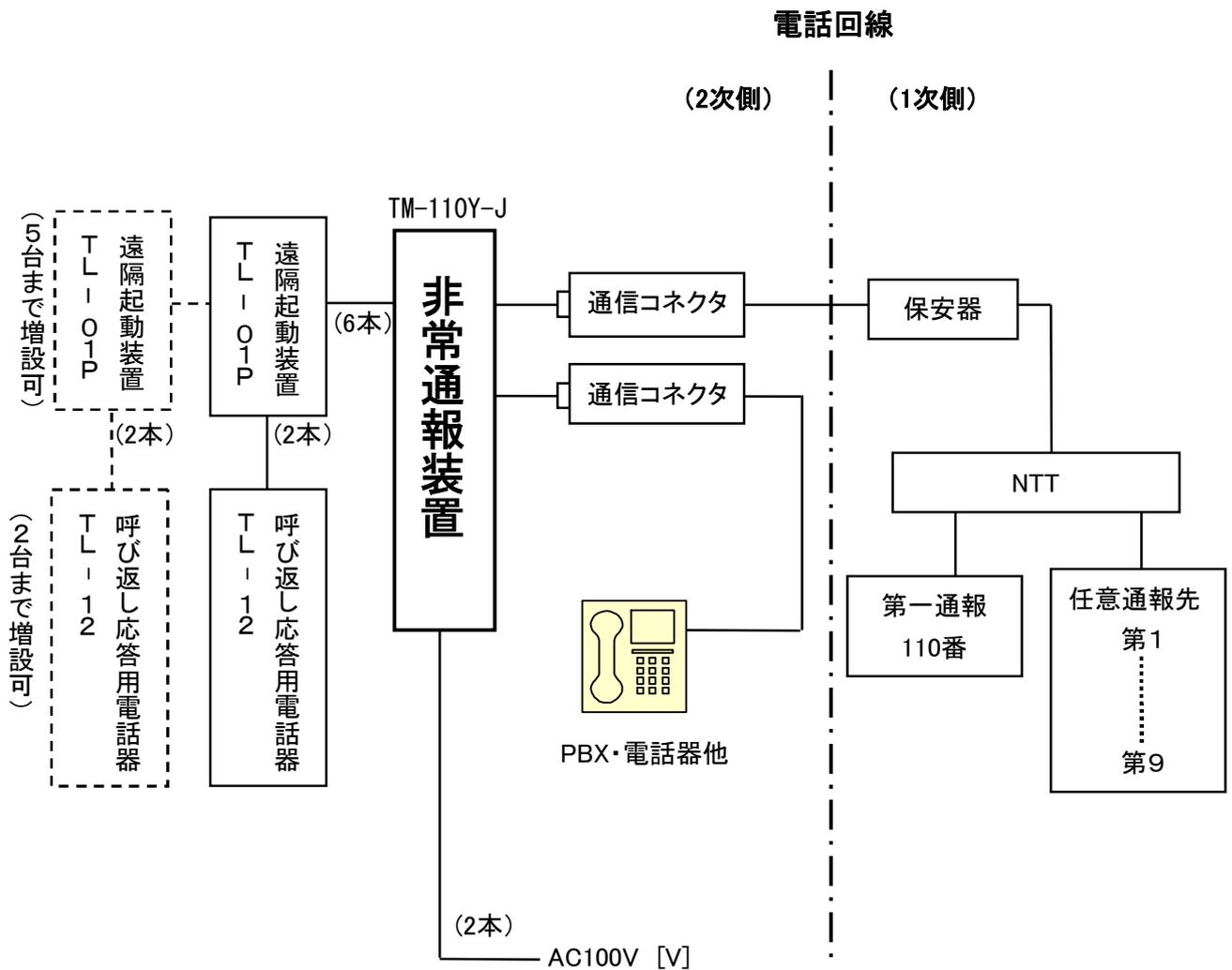
ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ本体の起動スイッチだけでなく離れた場所からの起動を可能にする装置です。
起動をかけるとブザーと表示ランプにて表示します。
（起動スイッチ及びＧＮＤ端子は必ず送り配線をして終端抵抗器(10kΩ)を接続して下さい。）

ＴＬ－１２（呼び返し応答用電話器）

110番からの逆信をＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ本体の電話器以外に別の場所でも受けられるようにした電話器です。
（増設は２台まで）
（ＴＬ－０１Ｐと隣接する場合にはＴＬ－０１Ｐ内のモジュラージャックまたは、端子を利用する事ができます。）

6. 動作説明

概略

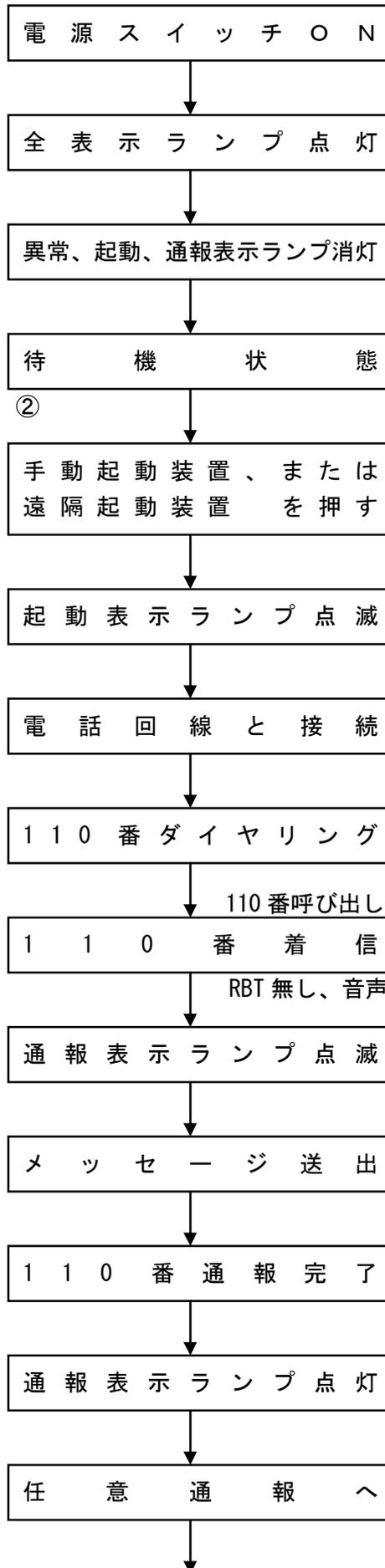
本機（ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ）は非常時、手動起動装置又は遠隔起動装置が押された時、アナログ回線を通して所轄の 110 番及び予め登録された緊急連絡先（任意通報先）へ自動通報を行う装置です。

又、遠隔起動装置、外部からの入力信号線の断線を常時監視すると共に、2 週間に 1 度自動的にバックアップ用蓄電池の容量をチェックし、容量不足の場合は異常表示をする機能を備えています。

システム構成図

7. 動作順序　（動作の概略と各表示ランプの状態）

<<110番通報>>

表示ランプ　表示例

- ■ … 点灯
- ⧓ … 点滅
- □ … 消灯

電源	異常	起動	通報	動作	備考
□	□	□	□	電源スイッチON	
■	■	■	■	↓ 全表示ランプ点灯	
■	□	□	□	↓ 異常、起動、通報表示ランプ消灯	
■	□	□	□	↓ 待機状態	緑色「電源表示ランプ」だけが点灯しています。AC電源が切れ、予備電源に切替わると点滅に変わります。
				② ↓ 手動起動装置、または遠隔起動装置　を押す　（非常事態！！）	0.2秒以上押して下さい。（ノイズ等による誤動作を避ける為です。）
■	□	⧓	□	↓ 起動表示ランプ点滅	
				↓ 電話回線と接続	他の電話器を使用していても強制的に回路を切り捕捉します。
				↓ 110番ダイヤリング	ダイヤルトーン（ＤＴ）検出後、約1.5秒でダイヤリングスタート
				↓ 110番呼び出し 110番着信	110番が話中の場合には、約10秒後リダイヤルします。
■	□	⧓	⧓	↓ RBT無し、音声検出 通報表示ランプ点滅	
				↓ メッセージ送出	非常通報、非常通報。　こちらは…の・・です。逆信願います。」
				↓ 110番通報完了	呼び返し信号受信、または呼び返し応答用電話器で10秒以上会話した後、双方の電話器をもとにもどすことにより通報完了となります。
■	□	⧓	■	↓ 通報表示ランプ点灯	
				↓ 任意通報へ ↓	

ダイヤルトーン（ＤＴ）
…受話器を上げた時のツー音
リングバックトーン（ＲＢＴ）
…呼び出し中のルルルルル音

＜＜任意通報＞＞

表示ランプ　表示例

記号		意味
■	…	点灯
⧓	…	点滅
□	…	消灯

電源	異常	起動	通報	
■	□	⧓	■	回線の未使用確認

回線の未使用確認

①

↓

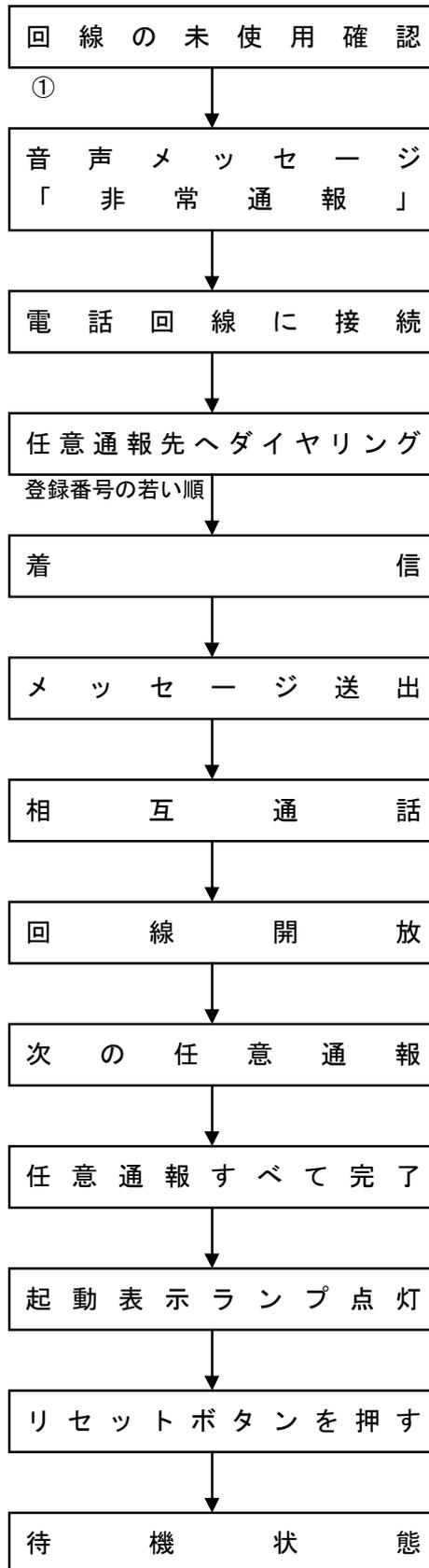
音声メッセージ「非常通報」

↓

電話回線に接続

↓

任意通報先へダイヤリング

登録番号の若い順

ダイヤルトーン（ＤＴ）検出後、約1.5秒でダイヤリングスタート（呼び出し40秒及び話中の場合、次の通報先へダイヤリングする為、①へもどります。）

↓

着信

（極性反転）

↓

メッセージ送出

「非常通報、非常通報。こちらは、……の……です。
逆信願います。」

↓

相互通話

受話　5秒
送話　5秒

↓

回線開放

↓

次の任意通報

（①へもどります。）

↓

任意通報すべて完了

途中で話中または、留守の場合、一巡した後、着信するまでくり返しダイヤリングします。

↓

起動表示ランプ点灯

↓

リセットボタンを押す

電源	異常	起動	通報	
■	□	■	■	リセットボタンを押す

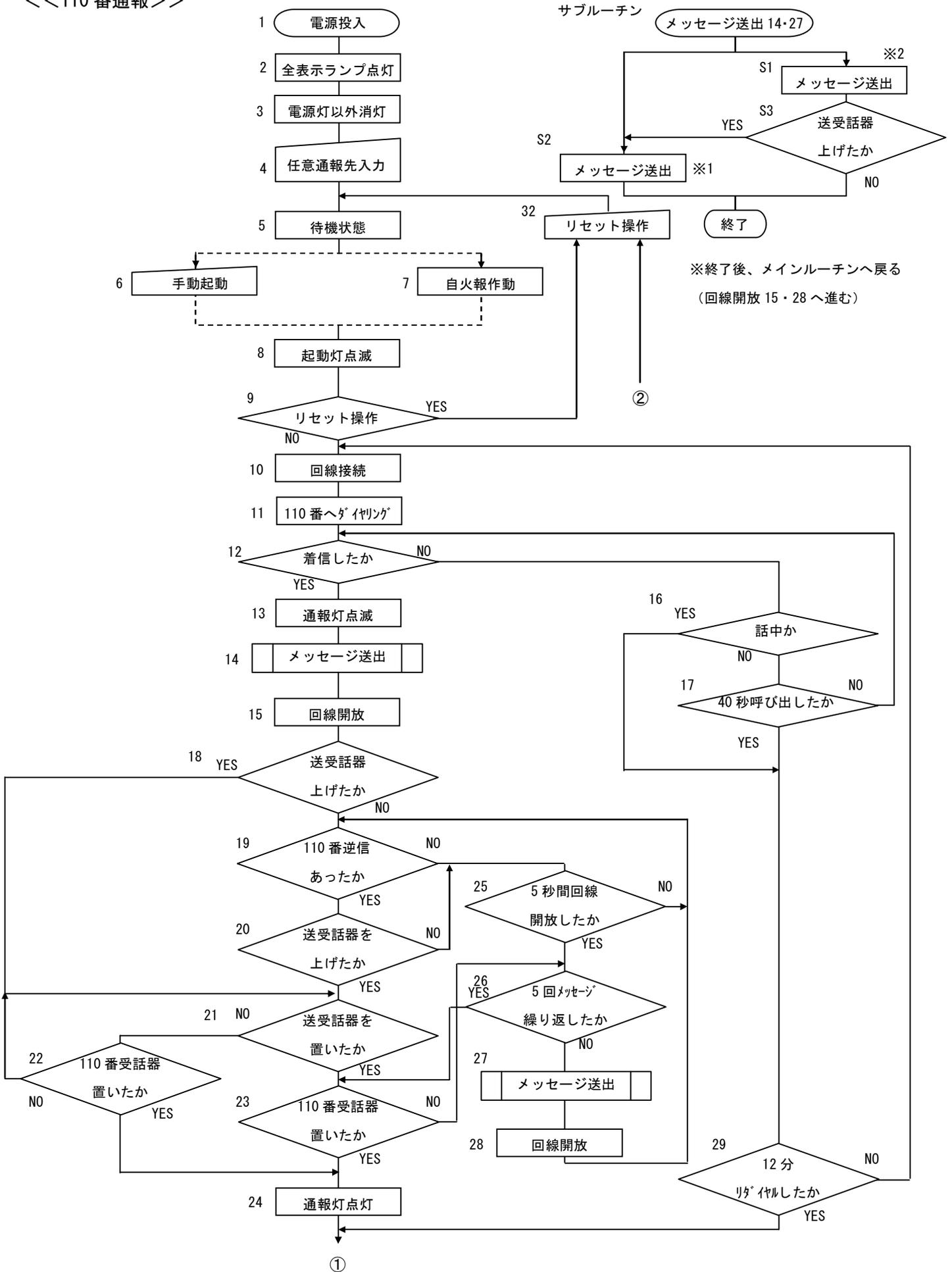
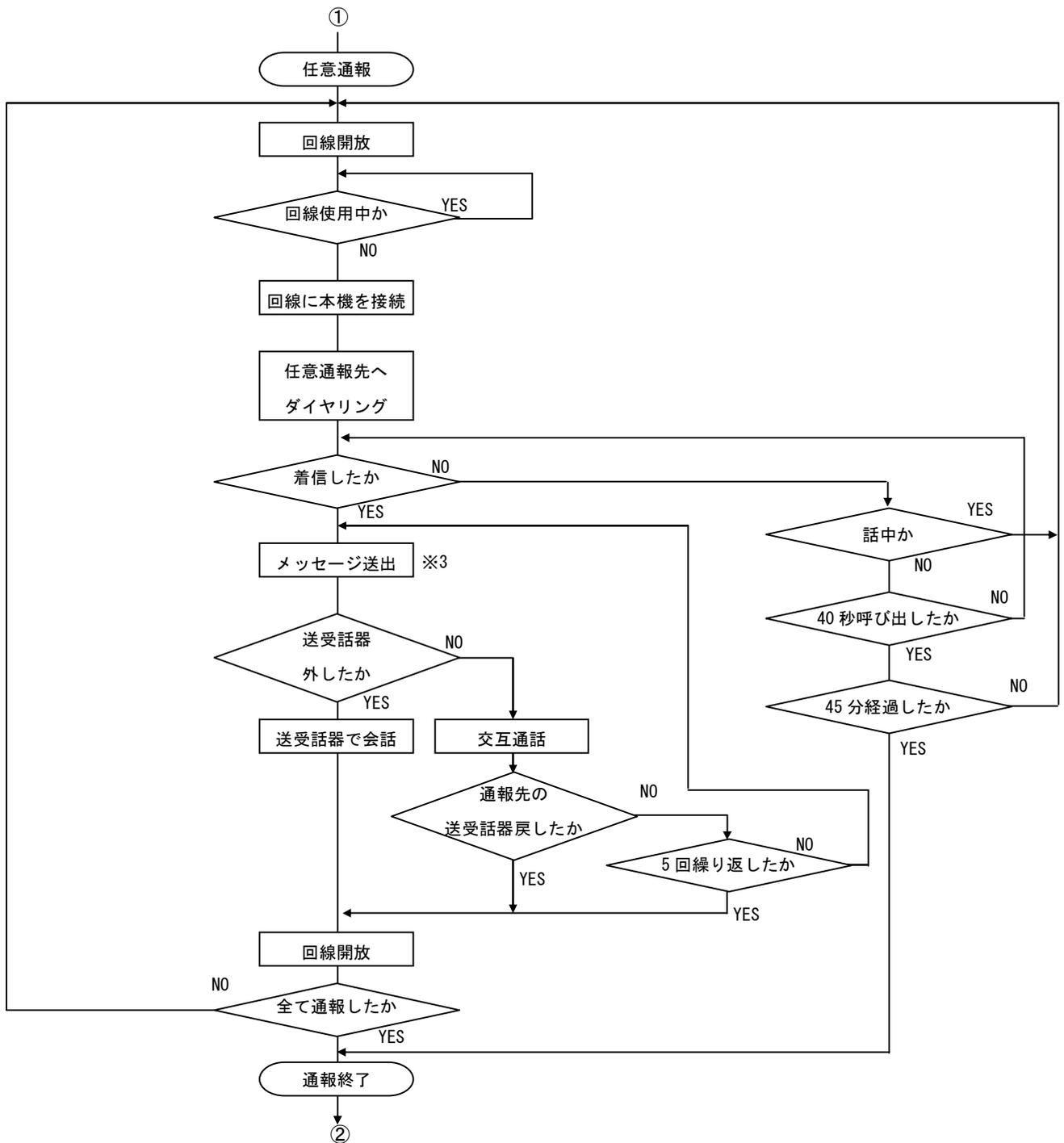
↓

待機状態

電源	異常	起動	通報	
■	□	□	□	待機状態

（②）へもどります。

8. フローチャート

<<110番通報>>
電源投入
全表示ランプ点灯
電源灯以外消灯
任意通報先入力
待機状態
手動起動
自火報作動
起動灯点滅
リセット操作
YES
NO
回線接続
110番へﾀﾞｲﾔﾘﾝｸﾞ
着信したか
通報灯点滅
メッセージ送出
回線開放
送受話器
上げたか
110番逆信
あったか
送受話器を
上げたか
送受話器を
置いたか
110番受話器
置いたか
通報灯点灯
①
5秒間回線
開放したか
5回ﾒｯｾｰｼﾞ
繰り返したか
メッセージ送出
回線開放
話中か
40秒呼び出したか
12分
ﾘﾀﾞｲﾔﾙしたか
リセット操作
②
サブルーチン
メッセージ送出14･27
※2
メッセージ送出
送受話器
上げたか
メッセージ送出
※1
終了
※終了後、メインルーチンへ戻る
（回線開放15・28へ進む）

＜＜任意通報＞＞

●メッセージの内容　（※１）「非常通報　非常通報。こちらは、……の……です。
逆信願います。」

（※２）※１、のメッセージが流れます。
（「逆信願います。」のメッセージは流れません。）
110 番通報時、逆信を受けた後のメッセージは※１、と同様ですが、
「逆信願います。」のメッセージは流れません。

注意　任意通報中に手動起動されると、110 番に再ダイヤルし手動起動時の動作をします。

9. 取付工事

9-1【　工事の手順　】

① 本機設置　　●本機はアナログ回線専用です。デジタル回線には接続できません。

② 配線工事（回線、ＡＣ電源、ＴＬ－０１Ｐ、ＴＬ－１２）

注）１．電話回線の工事は工事担任者が行って下さい。

注）２．緊急の装置ですので、ＡＣ電源は専用のコンセントまたは、ブレーカーより引き込んで下さい。

（雷サージ等、外乱ノイズから保護するため、必ずアースをとって下さい。）

③ ユーザー別通報メッセージのＲＯＭパック挿入

④ バッテリー接続及びＡＣ100Ｖ投入

⑤ 設定項目の入力

⑥ 通報試験

注）絶縁抵抗を測定する時には、必ずアース（ＦＧ端子）を浮かして下さい。

注意　取付けにあたり次の様な所への設置は絶対に避けて下さい。

① 直射日光・暖房設備等により温度が上昇する場所

② 窓際・玄関・製氷倉庫等、温度差が著しく下がる場所

③ 湿度が高く、結露の恐れがある場所

④ 強い衝撃及び振動の加わる場所

⑤ 塵・鉄粉・有毒ガス・腐食性ガス等を発生する場所

⑥ 水や薬品のかかる恐れのある場所

⑦ 大型の設備機器等・特に大きなノイズの影響を受ける恐れがある場所

9-2【　機器取付図　】

ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊの取付

※１.カバーの外し方

カバーの凹部にマイナスドライバーまたはコインをさし込み取外して下さい。

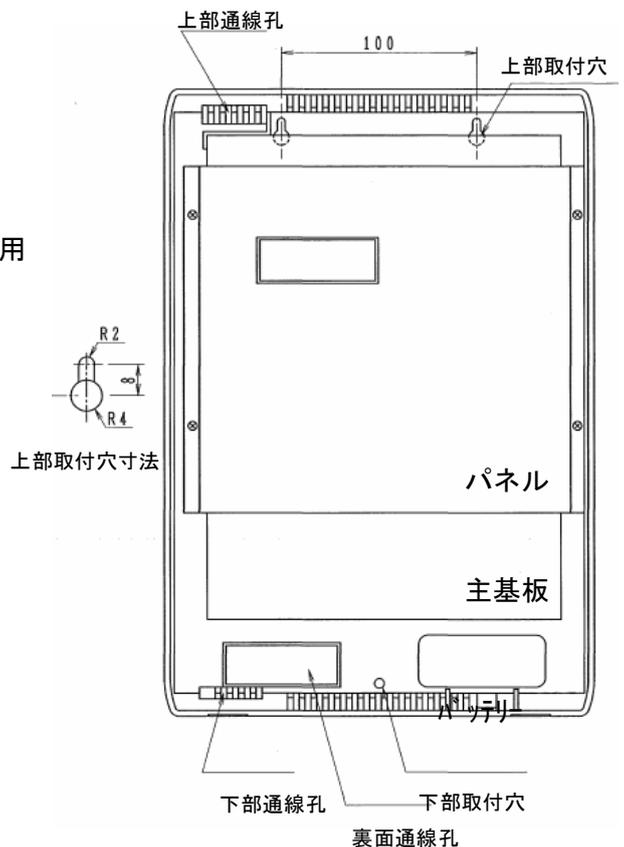
※２.本体の取付方法

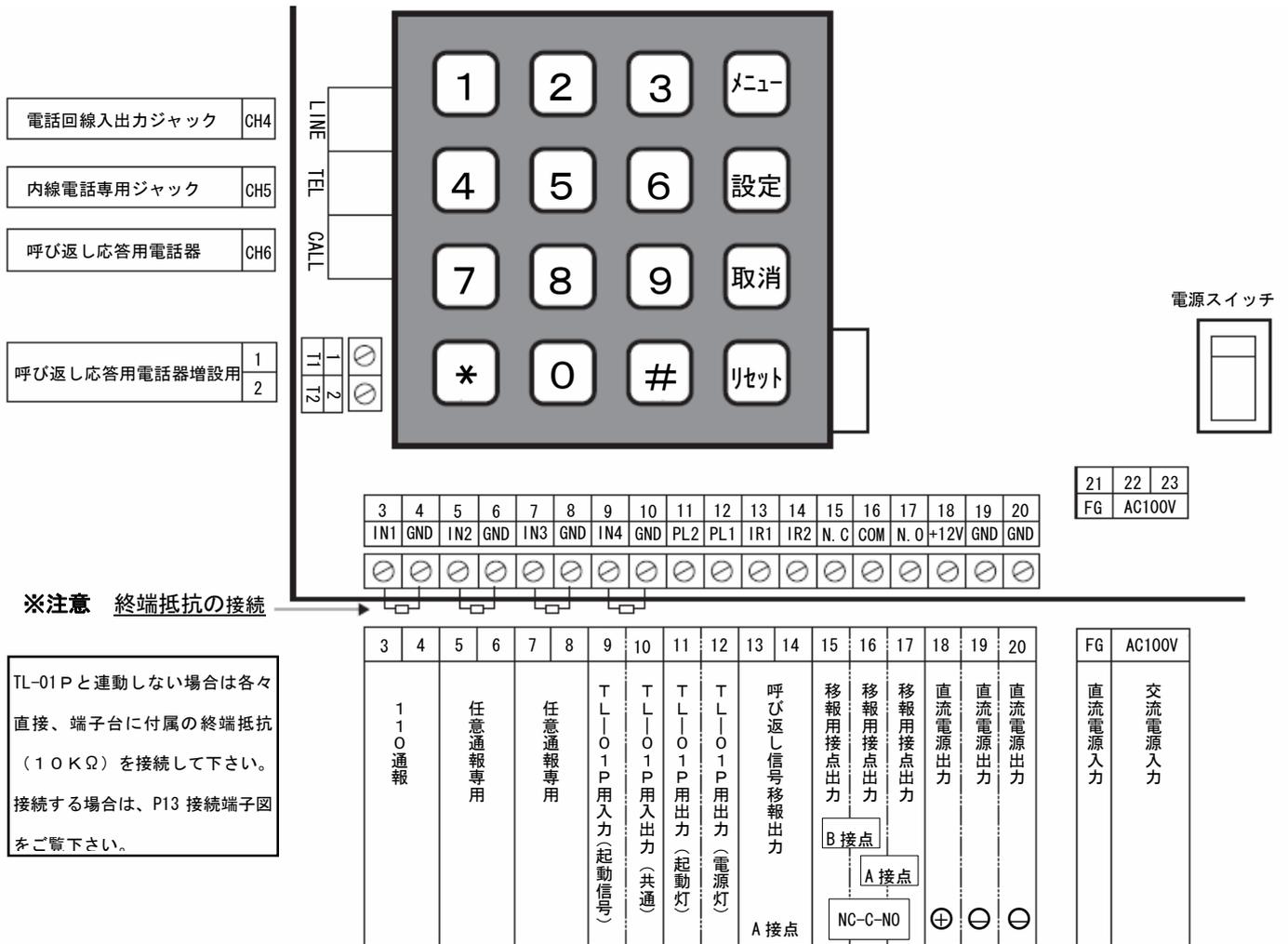
上部２箇所、下部中央部１箇所の取付穴を利用して付属のビスで壁面に取付けて下さい。

通信コネクタの取付

電話回線との接続は容易に切替えができる様に必ず通信コネクタ（付属品）を経由することが必要です。（点検時に試験器を接続するため）

通信コネクタのカバーをマイナスドライバーで開け、付属のビス２本で本体の近くに取付けて下さい。

専用接続コード（モジュラープラグ付コード）で本体と接続するため、本体上部通線孔から約 30cm 以内の所に取付けて下さい。

9-3【　接続端子説明　】

上蓋を開けるとプリント基板（主基板）の下部に外線接続用端子、及び左部分に電話回線接続用ジャック(モジュラージャック)が並んでいます。各端子の用途を下記に示します。

■モジュラージャック

・ＣＨ４　……………………　電話回線入出力用ジャック

・ＣＨ５　……………………　内線電話専用ジャック

・ＣＨ６　……………………　呼び返し応答用電話器接続用ジャック

■端子台

・１．２　……………………　呼び返し応答用電話器の増設用ジャックです。２台まで増設できます。

・３．４　……………………　非常用押しボタンの入力端子です。

・５．６　……………………　任意通報専用の入力端子です。110 番には通報しません。

・７．８　……………………　“　　　　　　　　　　”

・９．１０．１１．１２　…　遠隔起動装置（ＴＬ－０１Ｐ）の接続端子です。（起動信号、起動表示ランプ、電源表示ランプ）

・１３．１４　………………　呼び返し信号の移報出力端子です。(110 番からの逆信信号と連動)

・１５．１６．１７　…………　起動移報出力端子です。(１５．１６：Ｂ接点　１６．１７：Ａ接点)

・１８．１９．２０　…………　直流電源出力端子です。１２Ｖを常時出力していますので、移報出力を介して使用して下さい。(電源容量：0.1Ａ)
１８（＋)、１９、２０（－)

■ＡＣ入力端子

・交流入力、ＡＣ100〔Ｖ〕を入力する端子です。ＦＧ端子は、アース(設置)して下さい。

9-4【　接続端子説明　】

システム構成図、取付寸法図、端子説明、及び下図接続例を参考にし、下記イ…ニの順に接続して下さい。

イ 保安器と通信コネクタ及び、通信コネクタと内線電話器の配線

交換機が接続されている場合には、交換機の一次側と二次側が判別しにくいことがありますので注意して下さい。

ロ 通信コネクタと本体（ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ）の接続

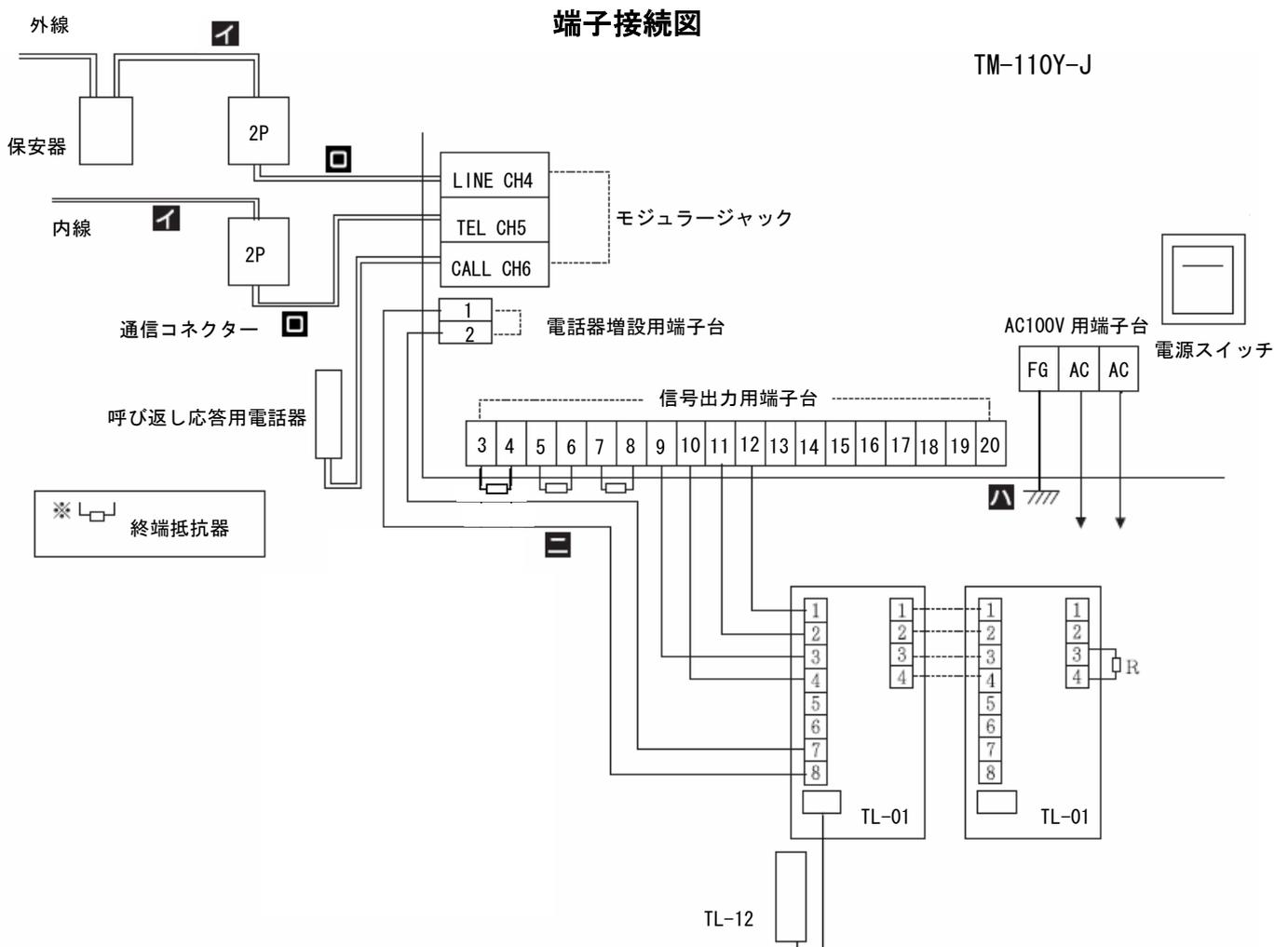
モジュラープラグ付コード（付属品）で通信コネクターと本体のモジュラージャックＣＨ４.５を接続（押し込む）して下さい。

ハ 商用電源　ＡＣ１００[Ｖ]の配線

緊急用装置の為、電源は必ず専用のコンセント又は専用のブレーカーから引込んで下さい。

ニ 外部入力（遠隔起動装置）の配線

必要に応じて遠隔起動装置（ＴＬ－０１Ｐ）を端子番号９.１０.１１.１２に接続して下さい。

注１）　小型の端子台ですが、φ２の導線まで接続できます。リード線の先端から約６㎜被服を取り除き、角穴に挿し込みマイナスドライバーでビスを締めて下さい。

9-5【　工事完了後の検査　】

※電源投入前に先ず下記項目をチェックして下さい。（目視検査）

①各配線部のチェック
　ＡＣ電源部、予備電源コネクター部、端子接続部、終端抵抗器の有無他。

②電話回線接続部のチェック
モジュラープラグの差し込み状態、ＣＨ４（外線側）とＣＨ５（電話器側）の再確認、
逆に挿入されていてもアナログ回線は使用可能ですが、外部通報はできません。

※電源を入れて下さい。（本体電源スイッチＯＮ）

①全ての表示ランプが約１秒間点灯し、その後電源表示ランプ（緑色）のみ点灯、
他は消灯します。

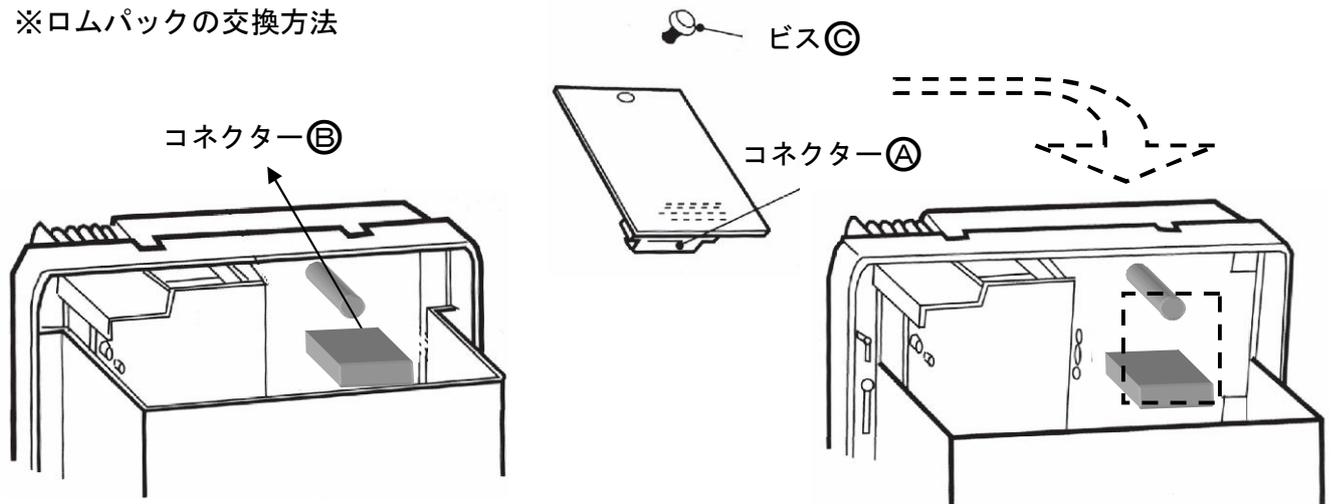
電源表示ランプが点滅している時	………	予備電源による動作になっておりＡＣ電源が入っておりません。
異常表示ランプが点滅している時	………	画面表示に異常内容が表示されますので、P.18 の表に従い処置をして下さい。

②画面表示にメモリーエラー等の表示が出る場合がありますが、これは電源初投入で
設定事項が未入力のためです。リセットキーを押し各項目毎に入力してください。(P.18)

注意
本体取付工事を先行させ、ロムパック未装着の場合は、“ロムパックナシ”の表示と
異常表示ランプが点滅しますが、13.基本入力操作（設定）はできます。(P.19)

10. 装着方法

【ロムパック・保護板の交換方法】

※ロムパックの交換方法

注意 ロムパックの脱着は電源スイッチがＯＦＦになっている事を確認の上行って下さい。

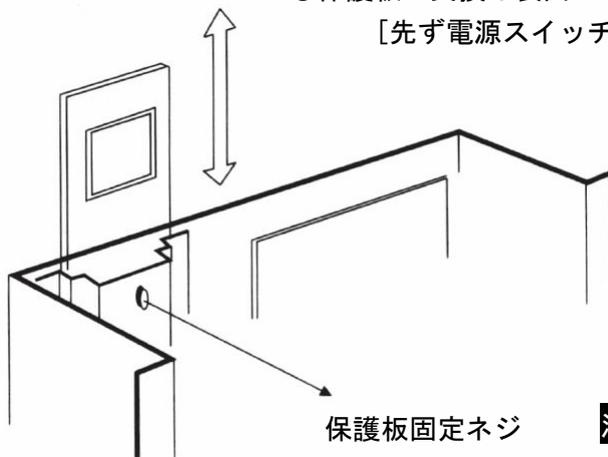
①表面パネルの取付けビス（４箇所）をゆるめ約15mmパネルを下げて下さい。

②コネクターⒶ（ロムパック）を、コネクターⒷに挿入して下さい。

③ロムパックが正しい位置にセットされているか確認し、ビスⒸで固定して下さい。

④表面パネルを元の位置（左図の状態）にもどして固定して下さい。

※保護板の交換方法

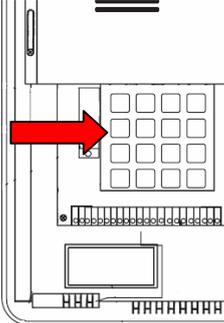
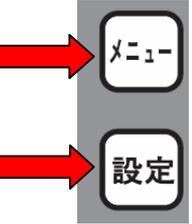
◎保護板の交換は表面パネルをはずさなくても可能です。
［先ず電源スイッチをＯＦＦにして下さい。］

① パネル固定ビスをゆるめ、保護板を引き抜いて下さい。

② 保護板は押し割り部分が２連になっていますので上下逆にして元の位置にもどして固定して下さい。

注意 保護板には裏、表がありますが、切り込み部分を内側にして下さい。

11. 設定メニュー項目

初　め　に

1	2	3	4
表カバーを取ります。	電源スイッチをＯＮにします。	メンブレンスイッチのメニューキーを押す毎に本機前面の画面表示に９通りのメニューが表示されます。	ﾒﾝﾌﾞﾚﾝｽｲｯﾁ メニューキーを押し、設定する項目にあわせ、設定キーを押せばその該当するメニューの操作／設定方法が指示されます。

設定メニュー項目

液晶表示	設定内容
ﾒﾆｭｰ ﾊﾞﾝｺﾞｳ	設定メニュー画面。
[１]ヒヅケ　セッテイ	年、月、日、時刻の設定
[２]カイセン　シュベツ	ブッシュ回線、ダイヤル回線の選択
[３]ギャクシンシテイ	110 番からの逆信を受ける電話器の選択
[４]シケン　ツウホウ	試験通報実施の有無
[５]ＴＥＬトウロク	任意通報先電話番号（最大９ヶ所）の登録
[６]テイキテストツウホウ	定期テスト通報実施の有無、周期等を設定
[７]メッセージモニタ	手動起動のメッセージモニター
[８]カイセンチェック	電話回線の異常を設定時間毎にチェック（ＹＥＳ設定時）
[９]リレキカクニン　０ケン	各入力の終了入力日時（履歴）を表示。最新５件まで

設定項目の説明

1.ヒヅケ　セッテイ（日付設定）

年、月、日、時刻を設定、定期テスト通報や、履歴の確認時に必要です。
カレンダーが組み込まれていますので閏年時の変更は不要です。

2．カイセン　シュベツ（回線種別）

本体接続の電話回線種別（ブッシュ回線、ダイヤル回線）を選択します。
プッシュ回線は『プッシュ』を、ダイヤル回線は、『２０Ｐ』を選択して下さい。

３．ギャクシンシテイ（逆信指定）

110 番通報時、警察署からの逆信（呼び返し）を一般電話器で受けるか否かの設定をします。
一般電話器でも受信する場合は、ＣＨ５．６側にカーソルを設定します。

４．シケン　ツウホウ（試験通報）

試験通報先に登録した電話番号に、110 番通報時と同一条件（極性反転検出無し）で
通報し、正常動作の確認が出来ます。(10 分間のみ)
試験通報終了後は必ず NO 側に設定し解除して下さい。
（但し、YES 設定後 10 分経過後は自動的に試験通報が解除されます。）

５．ＴＥＬトウロク（ＴＥＬ登録）

最大９ヶ所の任意通報先(携帯電話も可)が登録出来ます。

６．テイキテストツウホウ（定期テスト通報）

登録された通報先（1 ヶ所）に定期的にテスト通報を実施します。（ＹＥＳ設定時）
月１回、週１回、隔週１回、の周期設定と実施日時を入力します。

７．メッセージモニタ

手動起動時 及び、非常事態を１１０番に通報する内容と同一のメッセージを各々、
本体より再生モニターし確認できます。メッセージ送出までには数秒かかります。

８．TEL カイセンチェック（ＴＥＬ回線チェック）

本体接続の電話回線の異常（断線、接続箇所の接触不良等）を、設定された時間に自動的に
チェックします。（ＹＥＳ設定時）
但し、電話使用中にチェック時刻になりますと、その時点で電話が切れてしまいますので、
チェック時刻は電話使用頻度の少ない時間帯（深夜、早朝）に設定して下さい。
NO 側に設定しますとチェックしません。
チェック時においても、非常事態発生時は１１０番通報が優先されますので、非常時に支障を来たす事はありません。

９．リレキカクニン（履歴確認）

各々入力毎に最終信号入力日時の履歴を記憶します。
信号入力履歴は、Ｎｏ１～Ｎｏ４の端子入力の他、Ｎｏ５．手動起動入力。
又、断線履歴は、Ｎｏ１～Ｎｏ４の端子入力の断線。
その他エラー（停電、バッテリーエラー等）履歴が自動的に記録されます。

画面表示させる時は“ＹＥＳ”側にカーソルを移動し設定キーを押します。

信号入力履歴、断線履歴、その他エラー履歴は、それぞれ最新５件まで記録
されます。

12. 自己メンテナンス機能

本機は雷等、外乱ノイズによるデータ消去や設定時の入力ミス、または、配線周りの断線接続不良等、様々な異常を常時監視する自己メンテナンス機能を備えています。
異常発生時にはその内容が画面表示され、更にアラームや音声でまわりに知らせます。
異常が発生しましたら下表にしたがい適切な処置を速やかに行って下さい。

異常時の画面表示とその処置

画　面　表　示	異　常　内　容	処　　　置
ヒヅケエラー	日付、時刻の異常	データ再設定
ロムパック　エラー	ロムパックの異常	ロムパックの装着確認 ロムパックの交換
ロムパック　ナシ	ロムパックの未装着または、接着不良	ロムパックの装着確認
ロムパック　データナシ	ロムパックの異常 （音声データなし）	ロムパックの装着確認 ロムパックの交換
テイデン　ケンチ	一定時間以上の停電または、ＡＣ電源入力部の接触不良	ＡＣ電源入力部の点検
TEL カイセン ダンセン	電話回線の断線または、接続部の接触不良（設定時１日１回のチェック）	電話回線　接続部の点検
ダイヤルトーン イジョウ	ダイヤルトーン異常	ダイヤルトーンの点検 ※ﾀﾞｲﾔﾙﾄｰﾝ：受話器を上げた時のツー音
バッテリー　エラー	予備電源（バッテリー）の電圧低下（1ヶ月に2回チェック）	バッテリーの交換
ダンセン ケンチ	信号入力線の断線または、接触不良	信号入力線及び、終端抵抗器の点検

注意：電源初投入時に“メモリーエラー”が表示される場合があります。
再設定、再入力された時は、必ずパネル面のリセットボタンを押し日付表示に戻して下さい。

異常時の動作表示説明

- 画面表示　………　液晶表示器（ＬＣＤ）にカタカナ表示
- 表示ランプ　……　ＬＥＤ異常表示ランプの点滅（黄色）
- 音声表示　………　「ピピピ、ピピピ　異常が発生しました」

注意：上記の異常で再設定・再点検をした場合は必ず試験通報等を行い正常動作を確認して下さい。

13. 基本入力操作

各設定はメンブレンスイッチより入力します。
電源スイッチをＯＮにし、『メニュー』キー、『設定』キーと続けて押し、
〔１〕ヒヅケ セッテイ　より順次入力して下さい。(P.20)

メンブレンスイッチの説明

メンブレンスイッチ

『メニュー』キー
メニュー（タイトル）を表示させる時使用します。
続けて押すと、１～９の指定メニューのタイトル部
のみを画面表示します。
※ダイレクト呼び出し機能を使い直接希望する
タイトル部を呼び出す事ができます。

『設定』キー
選択した内容を確定する時使用します。
このボタンを押し設定します。

『取消』キー
電話番号登録の入力ミスや、画面表示された
入力履歴情報の消去時に使用します。

『リセット』キー
メニューを最初に戻す時に使います。このキーを
押しますと設定中の動作を中断します。

『＊』・『＃』左右移動カーソルキー
移動カーソルキーにて　＊ マークを設定項目の
左側に合わせ確定します。
『＃』右移動カーソルキーは電話番号の消去時にも
使用します。（〔５〕ＴＥＬトウロク の項目参照）

ダイレクト呼び出し機能

9 項目のタイトルをダイレクトに呼び出す機能。

◎　呼び出し方法　…　〔５〕ＴＥＬ　トウロク　を呼び出す場合

画面表示	操作方法等
2013　1/23　12：34	メニューキー
ﾒﾆｭｰ ﾊﾞﾝｺﾞｳ	5　＋　設定キー
[5]TEL ﾄｳﾛｸ	呼び出し完了

1. 日付設定（出荷時に予め現在日時を入力してあります。修正する場合に設定してください。）

設定例：2015 年 01 月 23 日　12 時 34 分　の場合

画面表示	操作方法等
[1]ﾋﾂﾞｹ ｾｯﾃｲ	設定キー
（予め入力した日時を表示）	2015　＋　設定キー
2015/00/00　00：00	01　＋　設定キー
2015/01/00　00：00	23　＋　設定キー
2015/01/23　00：00	12　＋　設定キー
2015/01/23　12：00	34　＋　設定キー
[2]ｶｲｾﾝ ｼｭﾍﾞﾂ	設定完了

２. 回線種別（電話回線のプッシュ・ダイヤルを選択）

画面表示	操作方法等
[2]ｶｲｾﾝ ｼｭﾍﾞﾂ	設定キー
＊ﾌﾟｯｼｭ　20 P　10P	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
[3]ｷﾞｬｸｼﾝｼﾃｲ	設定完了

ﾌﾟｯｼｭ　…　プッシュ回線の場合

20 P　10P　…　ダイヤル回線の場合（20 P　10P を選択して下さい。）

３. 逆信指定（110 番からの逆信を受ける電話器の選択）

画面表示	操作方法等
[3]ｷﾞｬｸｼﾝｼﾃｲ	設定キー
CH5.6　＊CH6	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
[4]ｼｹﾝﾂｳﾎｳ	設定完了

CH5.6　…　一般使用電話器と呼び返し応答用電話器双方で逆信を受ける場合。

CH6　…　呼び返し応答用電話器のみ逆信を受ける場合。

４. 試験通報（試験通報先を設定し、110 番通報時と同様のテストを実施。P24, 参照）

設定例：1234567890 に設定する場合

画面表示	操作方法等
[4]ｼｹﾝﾂｳﾎｳ	設定キー
1.ｼｹﾝﾂｳﾎｳ ＊ＹＥＳ　ＮＯ	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
2.ﾂｳﾎｳｻｷ	1234567890　＋　設定キー
[5]TEL ﾄｳﾛｸ	設定完了

実施後は必ず NO 側に試験通報解除（110 番）に
設定して下さい。10 分経過後、試験通報状態が解除されます。

５．ＴＥＬ登録（任意通報先の電話番号を登録）

設定例：1 件目　1234567890
　　　　2 件目　2345678901
　　　　3 件目　3456789012　　の 3 件を入力する場合

画面表示	操作方法等
[5]TEL ﾄｳﾛｸ	設定キー
1：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ 1234567890	1234567890　＋　設定キー
2：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ 2345678901	2345678901　＋　設定キー
3：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ 3456789012	3456789012　＋　設定キー
5：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ	設定キー
6：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ	設定キー
7：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ	設定キー
8：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ	設定キー
9：ﾆﾝｲ TEL ﾄｳﾛｸ	設定キー
[6]ﾃｲｷﾃｽﾄｽｳﾎｳ	操作完了

※電話番号の消去 … カーソルを左側にある事を確認し、『消去』キーで登録済みの番号を
消去し全て消去後、『設定』キーを押して下さい。

※電話番号の変更 … 既に登録されている番号の上に重ねて入力し『設定』キーを押して下さい。

６．定期テスト通報（電話回線と本体の定期的なチェック）

設定例：毎月 30 日午後 7 時、通報先の電話番号 6789012345 に定期テスト通報を実施する場合。

画面表示	操作方法等
[6]ﾃｲｷﾃｽﾄｽｳﾎｳ	設定キー
1：ﾃｲｷﾃｽﾄﾂｳﾎｳ ＊ＹＥＳ　　ＮＯ	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
2：ﾂｳﾎｳｻｷ	6789012345
3：ｶﾝｶｸ ＊ﾂｷ　ｶｸｼｭｳ　ｼｭｳ 1	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
4：ﾋﾂﾞｹ(1-31) 00	30　＋　設定キー
5：ｼﾞｶﾝ 00：00	19　＋　設定キー
5：ｼﾞｶﾝ 19：00	00　＋　設定キー
[7]ﾒｯｾｰｼﾞﾓﾆﾀ	操作完了

７．メッセージモニタ（通報メッセージの内容確認）

画面表示	操作方法等
[7]ﾒｯｾｰｼﾞﾓﾆﾀ	設定キー
[7]ﾒｯｾｰｼﾞﾓﾆﾀ ＊ＹＥＳ　　ＮＯ	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
[7]ﾒｯｾｰｼﾞﾓﾆﾀ ＊ｼｭﾄﾞｳ　ｼﾞｶﾎｳ	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
[7]ﾒｯｾｰｼﾞﾓﾆﾀ ｻｲｾｲﾁｭｳ	数秒後にメッセージ送出
[7]ﾒｯｾｰｼﾞﾓﾆﾀ ＊ｼｭﾄﾞｳ　ｼﾞｶﾎｳ	リセットキーを押す。
ﾒﾆｭｰ ﾊﾞﾝｺﾞｳ	操作完了

８. TEL 回線チェック（電話回線の断線等、異常を 24 時間毎にチェック）

設定例：電話回線のチェックを毎日午前 3 時に実施する場合。

画面表示	操作方法等
[8]TEL ｶｲｾﾝﾁｪｯｸ	設定キー
[8] TEL ｶｲｾﾝﾁｪｯｸ ＊ＹＥＳ　　ＮＯ	＊キー及び＃キーでカーソルを動かし、設定キー
[8] TEL ｶｲｾﾝﾁｪｯｸ ｼﾞｺｸ ｾｯﾃｲ　00：00	03　＋　設定キー
[8] TEL ｶｲｾﾝﾁｪｯｸ ｼﾞｺｸ ｾｯﾃｲ　03：00	00　＋　設定キー
[9]ﾘﾚｷｶｸﾆﾝ	操作完了

９. 履歴確認（信号入力・断線検知・停電検知の発生時刻が自動的にメモリーされます）

設定例：2015 年 3 月 22 日 3 時 55 分に手動起動装置のスイッチが 1 度押された場合

画面表示	操作方法等
[9]ﾘﾚｷｶｸﾆﾝ　1 件	設定キー
ﾆｭｳﾘｮｸ　ﾘﾚｷ[5] 2015 03/22 03:55	元の設定画面に戻す場合は、　　…　リセットキー
ﾒﾆｭｰ ﾊﾞﾝｺﾞｳ	操作完了

入力履歴情報の消去方法　…　メモリー消去したい部分を画面表示させ『取消』キーを押すことで消去できます。別入力が記入されている場合は、新たな表示に切り替わります。同じく消去する時は、『取消』キーを押します。

注意

全ての設定項目の入力が完了しましたら、パネル面のリセットボタンを押し、操作を完了して下さい。

14. 通報試験

14-1【 疑似回線(専用試験装置)で行う場合 】

１１０番通報専用試験装置を使用し、下記の操作、確認を行って下さい。

① 本体（ＴＭ－１１０Ｙ－Ｊ）のモジュラージャック（ＣＨ４）に接続された回線をはずし、ＣＨ４と専用試験装置を接続して下さい。

② 本体及び、専用試験機の電源をＯＮにし、待機状態になっている事を確認して下さい。
（電源表示ランプだけが、点灯しています。）

③ 手動起動装置のスイッチを押す。（約 0.2 秒以上）起動表示ランプの点滅を確認して下さい。
（試験時は、保護板固定ネジを緩め、保護板を外してから行って下さい。）

④ 呼び返し開始。（専用試験装置に 110 番が表示され、110 番用電話器が鳴動します。）

⑤ 110 番用電話器の受話器を上げ、手動起動時のメッセージ送出を確認して下さい。
（通報表示ランプが点滅します。）

⑥ 「逆信願います。」のメッセージ確認後、専用試験機の逆信スイッチを入れ、呼び返し応答用電話器の鳴動を確認して下さい。

⑦ 呼び返し応答用電話器を取り上げ、110 番用電話器と会話できる事を確認して下さい。
⑧ 双方とも受話器を戻して下さい。
⑨ 通報表示ランプが点滅から点灯に代わり、任意通報動作に移ります。
⑩ 登録先の１番から順に通報を開始し登録先全ての通報が完了すると、起動表示ランプが点滅から点灯に変わります。

※③～⑩の動作はP.7、8 の動作順序、P.9、10 のフローチャートを御覧下さい。

途中でテストを中断する場合は、パネル面のリセットボタンを押し初期状態にもどして下さい。

確認事項
通報試験が終了しましたら、必ずパネル面のリセットボタンを押し、下記項目をチェックして下さい。

① 保護板を元の状態にセットして下さい。
② 電源表示ランプだけが点灯していることを確認して下さい。
③ ロムパック、終端抵抗器、バッテリーの取り付け状態を確認して下さい。

14-2【 本回線で行う場合 】 試験通報

試験通報モードに設定し、起動をかけると 110 番を想定した試験通報先を呼出し、110 番通報と同様のテストを行うことができます。
但し、110 番には通報しませんので、逆信の操作はできません。

操　作

① メンブレンスイッチの『メニューキー』、『４』、『設定』と続けて押し、〔4〕ｼｹﾝﾂｳﾎｳ を呼び出し、『＊YES』に設定した後、試験通報先を登録します。
② パネル面の『リセット』ボタンを押す。
　この時、画面表示には『ｼｹﾝﾂｳﾎｳ　ﾕｳｺｳ　ｼﾞｶﾝ　10m00ｓ　』が表示されますが、その後カウントダウンを開始します。
　これは、解除忘れを防止するためで、10 分間経過後には、自動的に試験通報は解除されます。
③ 手動起動装置のスイッチを押す。（約 0.2 秒以上）
④ 呼び出し開始（試験通報先）
⑤ 試験通報先の受話器を上げる。（メッセージ送出を確認）
　〔この場合逆信はできませんので、メッセージ送出中に本体側受話器（呼び返し応答用電話器）を上げ約 10 秒間以上相手と会話をして下さい。〕
⑥ 双方共、受話器をもどす。
⑦ 任意通報に移行。
　P. 8 の動作順序 P. 10 のフローチャートを御覧下さい。
⑧ 任意通報先を呼び出し。
⑨ 任意通報先の受話器を上げる。（メッセージ送出を確認）
⑩ 集音マイク、拡声スピーカーの動作を確認　（交互通話）５秒毎に切り替わります。
⑪ 本体側受話器を上げ、通報先と会話
⑫ 双方共、受話器をもどす。（次の通報先を呼出し）

以下順次登録先を呼び出し⑧～⑫の動作を繰り返します。通報先が留守もしくは話中にて不応答の場合は、次の通報先に移行し一連の動作終了後、再び不応答先を呼び出します。
この場合、登録先が全て応答する迄 再呼び出しを繰り返します。（この間、起動表示ランプは点滅中ですが終了すると点灯に変わります。）

確認事項

通報試験が終了しましたら、下記項目をチェックし待機状態に戻して下さい。

① メンブレンスイッチの『メニューキー』、『４』、『設定』と続けて押し、に設定し、『ｼｹﾝﾂｳﾎｳ』を呼び出し、『＊NO』に設定し、試験通報を解除して下さい。
② 保護板を点検。
③ パネル面の『リセット』ボタンを押す。
④ 各表示ランプの確認（電源表示ランプのみ点灯）
⑤ 画面表示が待機状態になっているかどうか確認（年・日・時表示のみ）

15. 操作方法・点検方法

操作方法

非常事態発生時、本体もしくはＴＬ－０１Ｐ（遠隔起動装置）の起動用保護板を押し割って手動起動装置のスイッチを押して下さい。
数秒後、110 番通報を開始しメッセージを送出します。警察署から逆信（呼び返し）が入りますので、呼び返し応答用電話器にて応答して下さい。

※回線使用時（話中）に起動をかけた場合でも、割込み機能が働きますので優先的に 110 番に通報します。但し、任意通報に移行後は使用中の割込みはできません。

応答後は必ず呼び返し応答用電話器の受話器をもとにもどして下さい。その後任意通報先の呼出しを開始します。

点検方法

（１） 点検の種類
点検は外観点検と、総合・機能点検に分けて実施するものとする。
ア. 外観点検
非常通報装置の機器の適正な配置、損傷等の有無その他主として外観から判断できる事項について確認を行うこと。

イ. 総合・機能点検
非常通報装置の機器の機能について、簡単な操作または全部もしくは一部を作動させ、その機能について確認を行うこと。

（２） 点検の期間
点検の期間は概ね次のとおりとする。
ア. 外観点検　　　　３ヶ月に１回以上
イ. 総合・機能点検　１年に　１回以上

（３） 点検実施者
点検は装置に精通した人が実施してください。

（４） 点検結果
点検結果については、その内容を記録し保管してください。

（５） 点検実施時の注意事項
点検を実施する際には事前に十分な打合せを行い、関係各所への連絡を徹底して下さい。

16. 点検要領

外観点検

項　　目	点　検　方　法	判　別　方　法
1.手動起動装置等	① 周囲に使用上の障害となるものがないか確認する。 ② 変形、腐食、手動起動装置等の保護板等に損傷がないか確認する。	① 使用上の障害となる物がないこと。 ② 変形、脱落、著しい腐食、保護板等に損傷がないこと
2.装置本体	常用電源の監視装置（表示ランプ等）正常であるか確認する。	監視装置（表示ランプ等）が、正常であること。
3.予備電源	外観及び内蔵電池の製造年月日を確認する。	① 損傷、腐食等がなく正常であること。 ② 製造年月日が３年以内のものであること。
4.発報確認ランプ	変形、損傷等がないか確認。	変形、損傷、脱落等がないこと。
5.接地	腐食、断線がないか、目視により確認する。	著しい腐食、断線等がないこと。
6.表示	取扱説明、その他必要な事項の表示が適正にされているか確認する。	取扱説明、その他の表示の汚損、不鮮明な部分がないこと。

総合・機能点検

項　　目	点　検　方　法	判　別　方　法
1.手動起動装置等	電話回線に接続し点検を行う場合は、事前に警察機関と打合せの上実施すること。 電話回線に接続しない場合は、110番通報専用試験装置を使用すること。	非常通報装置が起動し、試験のための通報が自動的に開始されること。
2.送出信号モニタ		電話回線に選択信号を送出中である旨の信号音をスピーカーでモニタできること。
3.発報の確認		発報した旨の表示がなされていること。
4.音声情報のモニタ		予め装置に記憶させておいた音声情報がモニタ用スピーカーで明確に聞き取れること。
5.自動再呼出		再呼出音をモニタで確認する。
6.通話機能への切替		蓄積音声情報を送出中に電話回線が送受話器側に切り替わること。
7.呼び返し、応答	回線を使用状態にした後、手動起動装置等を操作し、本機が局線を捕捉するか確認する。	① 呼び返し受信機能が正常であること。 ② 呼び返しに対し、応答及び通話が正常にできる。
8.回線の捕捉		電話回線に選択信号を送出し通報を自動的に開始すること。
9.任意通報の機能	110番への通報完了後、任意通報先へ順次通報するかどうか確認する。	通報表示ランプが点灯し、第一順位から順次通報すること。
10.予備電源	① 動作中、本機に保給している商用電源をOFF・ON（専用ブレーカーをOFF・ON）し、その動作を確認する。 ② 予備電源（内蔵バッテリー）を取り出し、電圧計等により確認すること。	① 自動的に予備電源に切替わり、常用電源に復旧した時、自動的に常用電源に切り替わること。又、切替わり時の正常動作も確認すること。 ② 電圧計等の指示が適正であること。